

阿里巴巴（中国）有限公司

阿里巴巴（中国）有限公司の新大楼は一ヶ月前に、引っ越してきたらしく、建物は新築でありかなり奇抜な外観である。会社が近くなって先ず目にしたのは大型トラックが建物に貼りついていること、建物の一部に蜘蛛の巣のようなデザインがあり度肝を抜かれたことである。この会社は中国でのネットビジネス専門会社（アリババドットコムや淘宝网）であることで日本でも有名な会社である。

建物の玄関には銭江峰総監、周総監が出迎えて頂いて、先ず、玄関にある建物全体の説明を受けた。私はまさかアリババを訪問できるとは夢にも思っていなかったので大変満足したが更に驚いたことは、この建物の中は撮影OKとのことだった。一般的には内部の撮影は禁止されているが、この会社撮影OKとは？話しを聞くうちに分かったことは、総裁の馬氏は全てオープンにすることを信条としていることからだった。



この建物には総勢8千人の従業員が勤務し、スターバックスが、我々が訪問する前日にオープンしたとか。値段は一般の店より一割安いと銭総監は言っていた。

玄関で建物全体の説明を受けた後、いよいよ内部の見学である。従業員が勤務している事務所や、ネット受注の動きや約200台のサーバーからの動きが全中国の地図でわかるようにリアルタイム画像で表示されている。



見学の後、会議室で銭総監から会社の全体状況を聞いた。ビジネスの機能別に4つの子会社に分けられている。アリババドットコム、淘宝

（ネット販売）、ソフトウェア販売、資金貸しである。銭総監は「浙江阿擘達網路技術有限公司」所属である。彼は東京に9年間在籍していたとかで日本語は大変うまい。

金都房産集团有限公司

開発区を後にして、市内にある不動産販売会社・金都房産集团有限公司へ向かった。雨が降り続けているので市内は馬達車・自動車・公共汽車で溢れ、しかも到着時刻が夕方となり企業の帰宅時間と重なって車のラッシュ状態に巻き込まれた。

訪問先の会社の前にバスは停車できないので近くで下車し、傘を指して歩いて訪問先へ向かった。

この会社が入っている杰地大厦一階には我々を歓迎する掲示板があった。エレベータで10階に行き、愈総経理一行が我々を迎えてくれた。約30分の遅刻であった。

